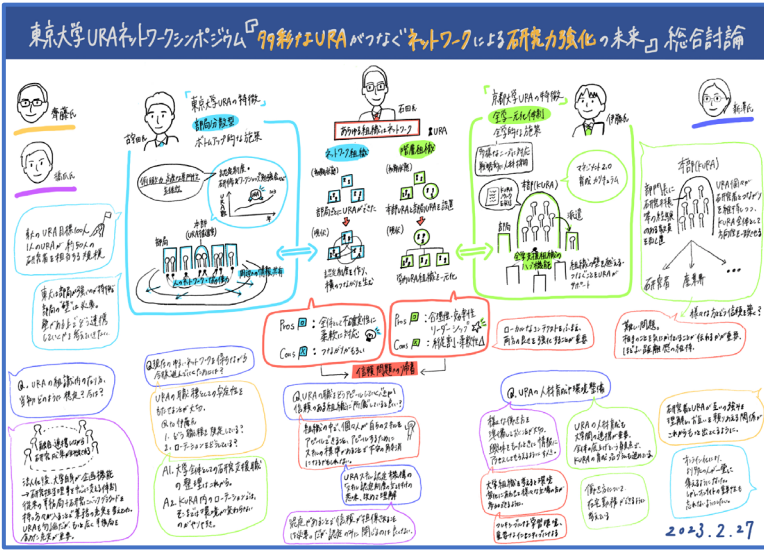


# ネットワーク型研究力強化体制の模索—URAの役割は？

## 1 部局分散型URAネットワークを伸展させ全学事業推進へ導けるか ～東京大学URAネットワークシンポジウム(2023)総合議論での検討結果より～



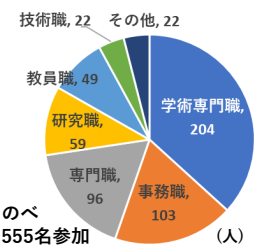
- ▶ 認定URAの多様性がネットワーク活動の柔軟性や高度化、幅の拡がりに貢献
- ▶ ネットワーク型組織に階層型組織の良さを取り込んだURA体制の強化が重要
- ▶ 「URAネットワークの伸展」に向けては多様な部門や職種間の信頼関係構築が必要
- ▶ 部局での活動を実施しつつ**大学全体活動としての連携**をURAが核となりどう図るか課題

**東京大学URAネットワークシンポジウム**  
<https://www.ura.adm.u-tokyo.ac.jp/services/view/c79c2f6e-ffe3-46aa-b949-a6b4e6f02f5e1>  
 パネリスト：横川 淳(文部科学省 人材政策課長)、伊藤 健雄(京都大学 KURA副センター長)、齊藤 延人(東京大学 理事・副学長)、古宇田 光(東京大学 プリンシパルURA)、石田 賢示(東京大学 准教授)  
 モデレータ：新澤 裕子(東京大学 シニアURA) (役職はシンポジウム開催当時)

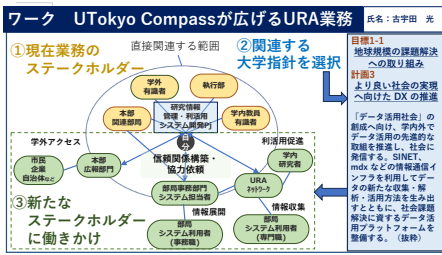
## 2 URAとその協働者による全学事業推進に向けた取り組み

- ▶ **大学方針[UTokyo Compass]を題材にした全教職員対象URA研修での「ワーク」実施**
- ・異なる部局で多様な職種の5～6名でチーム形成
- ・ワークの意見交換で多彩な考え方を共有・習得

2017-2023年度 URA研修参加者の職種



\*参加者は全学事業とのつながりを実感 ⇒ 組織・業務の枠を超えた発想創出へ



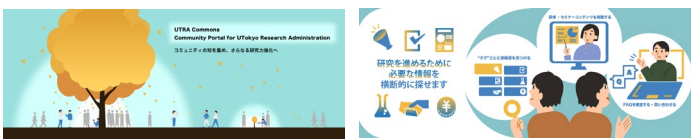
### <参加者の声>

- ・各部署の人とのつながりの重要性を強く感じた。
- ・他部署の業務内容や考え方を知ることができた。
- ・業務の新しいアクションを考える視野が広がった。
- ・どのような部署、人々に働きかければよいか明確になった。

## ▶ ポータルサイト UTRA Commons構築による研究力強化関連情報の全学への共有



- ・学内外研究力強化関連情報共有
- ・Q&Aなどによる知の交換と蓄積へ
- ・認定URA間での協働支援機能搭載



## 3 多彩なメンバーの協働チーム形成に必要なURAスキルと活動例

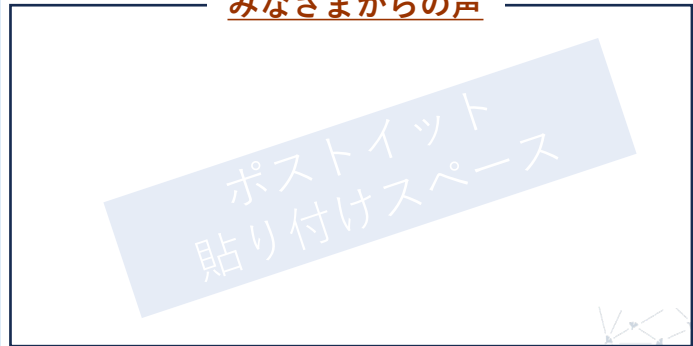
### ▶ URAスキル

- ・学内外のステークホルダー間での信頼性構築力
- ・教職員の多様な価値観の理解と協働に導く力
- ・ステークホルダー間の価値連鎖の設計力と実行力
- ・学内外人脈形成による情報収集力と展開力

### ▶ 活動例

- ・共同利用・共同研究拠点の評価担当者連携による評価対応方針の共有と対応連携
- ・研究DX推進における学内関係者検討チームの形成と議論の推進
- ・外国人研究者支援者の情報交換の場を形成

### みなさまからの声



(発表者) 古宇田光<sup>1</sup>、大村亜希子<sup>1</sup>、小貫美幸<sup>2</sup>、佐藤立子<sup>3</sup>、鈴木博之<sup>1</sup>、東野陽子<sup>4</sup>、殿木久美子<sup>5</sup>、永沼菜未<sup>6</sup>、野上識<sup>1</sup>、平澤加奈子<sup>6</sup>、吉田芳江<sup>5</sup>、  
<sup>1</sup>リサーチ・アドミニストレーター推進室；<sup>2</sup>本部IRデータ課；<sup>3</sup>宇宙線研究所；<sup>4</sup>地震研究所；<sup>5</sup>公共政策大学院；<sup>6</sup>史料編纂所